

# 兵庫県森林ボランティア 緑化推進大会 分科会とりまとめ

## ( 注意 )

- ・本紙は分科会各班の発表や模造紙のキーワードを記載しています。
- ・分科会では何らかの結論を出すよりも、参加者同士で所属団体以外の状況やアイデアに触れることが重視して開催しています。

令和7年12月14日  
兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会

# A班

## テーマ：森林環境教育への取組

### 発表要旨

A班は、森林環境教育が主に子ども向けに開催されていることから、子ども向けの森林環境教育に対する対象を絞って検討しました。

検討の結果、森林環境教育の実施ではいくつかの課題が示されました。良い指導者の確保が特に重要であると考えられました。その理由は、また参加したくなる魅力的な内容にすることや安全に森林環境教育を実施するためには、指導者の役割が重要だからです。

良い指導者の確保のため示された方策は以下のとおりです。

- ・団体内で指導者を育成する
- ・他団体に応援を求める、交流する
- ・外部の研修会に参加する
- ・環境教育参加者からのフィードバックを集める

### キーワード

#### 課題

指導者・人材、安全、  
資金、教材の確保  
効果的で魅力的なカリ  
キュラムの作成

#### 対応

- ・良い指導者の確保（特に重要）
- ・学校・行政・保護者との連携
- ・他団体との交流
- ・フィードバック・ノウハウの蓄積

# A班

森林環境  
教育とは  
何ですか？

何を「**つくる**」  
環境教育  
にしますか？

何を  
どうして風に  
教えるのが

**安全の  
確保**

安全な室内  
できる知識・  
意を学ぶための  
が重要

対象者に  
よって  
(内容変える)  
おもてなし

対象者に  
適した言葉  
レベル

人数が  
絶対的  
足らない

指導者・  
対象者  
の  
確保

受け入れ人数  
は変動するが  
団体の員数は  
変わらない。

指導技術  
の  
習得

受け入れ団体の  
全員が指導でき  
る知識・技術が  
あればOK

指導者  
レベルアップ

材料の  
確保

人材の  
確保

研修会  
県教育委員会  
への参加  
に研修会  
を設けよう

学校と  
TT合せ

活動資金  
をどこが負担  
するのか

継続的  
な活動資金  
の確保

TT合せ事  
・具体化  
・明確化

団体内での  
TT合せ  
(年当付)

また来年  
つる  
魅かうじ

伝承(

知識  
の  
蓄積

他団体の取組  
に参加

他団体に  
応援を  
求める

みんなで  
集まる  
時間をつくろ  
う。

う機運の  
學習・結果の  
フィードバック  
都度反省会  
の実施と  
次回への  
反映

詳しい知識  
を持つ人の  
人材バンク  
をつくる

高校生や  
大学生の参加  
による次世代  
の指導者育成

複数者の  
考え方による  
蓄習や経験

親しい参加  
してもらう

地域の  
大切さ  
トロ

# B班

## テーマ：後継者の確保

### 発表要旨

B班では後継者の確保について検討しました。多くの森林ボランティア団体では、会員の高齢化・若手不足により会員数の減少、年齢構成の偏り、会員の病気・怪我の増加に直面しています。

検討の結果、メンバーから示された対応策は以下のとおりです。

- ・新しい人に来てもらう。

→観察会等を開催し、体験をとおして活動の面白さ・目的を知ってもらう。

→作業（しんどさ）だけでなく森の恵みを受け取ってもらう。

- ・おもしろさを伝える指導者・リーダーの確保

→参加者に上手に説明できること

→活動の意義を理解してもらい次世代につなげるとさらに良い

- ・人をつなぎとめる情報誌・会報の発行（できれば紙媒体で）

後継者確保までの流れとして、観察会→講習会→会員化のパターンに誘導できる体制が望ましいと考えます。

### キーワード

#### 課題

- ・高齢化と若手不足
- ・参加者年代の偏り
- ・高齢化による病気と怪我の増加

#### 対応

- ・観察会（おもしろい体験）  
→ボランティアに誘導
- ・森の恵みのお土産  
→しんどいだけでは次が無い
- ・カリスマ的なリーダー
- ・部活化し子ども（緑の少年団）や大学生に来てもらう。
- ・紙の情報誌や会報
- ・観察会→講習会→会員化の流れ

## B班

## 1 テーマ(後継者の確保)

メンバー  
池内 高屋 福葉 高山 田

## 2 現状問題点(

- ・高齢化と若手の不足
- ・参加年代の片寄り(60代が少い)
- ・高齢化に伴う病人やケガ人が多い。

## 3 対応策・改善事例)

- ・月1回の観察会(おもじ入体験)→ボランティアへの誘導
- ・森の恵みの土産(るかば栗柿いわしき)も効果あたた
- ・カリスマ的なリーダーが必要  
(地域温暖化など活動意識方針・主旨の理解と伝承)
- ・子供(幼稚園)や大学生に広げ定着するには  
部活動とに体系化する。
- ・観察会→講習会→会員化へ誘導の体制
- ・人とつなぐための情報誌・会報も必要

# C班

## テーマ：外部への情報発信

### 発表要旨

C班は情報発信を議論していましたが、情報発信の手法から始め、目的などについて検討しました。

まず、情報発信する相手として、大学や企業、他団体等挙げられましたが、様々な相手にアプローチする必要があると言えます。

また、情報発信の手段として紙媒体とデジタル媒体の両方が挙げられました。紙媒体では地域向けのチラシがあり、地域との連携・意識の共有で有効と考えられます。デジタル媒体ではホームページやSNSが挙げられ、特にSNSは若い人向けに有効といえます。

情報発信はただ発信するのではなく、会員の増加や地域の共感など成果を意識して発信する必要があります。ただの媒体ではなく人と人のつながりの構築を目指す場合、人のエネルギー・時間が必要になります。

デジタル媒体をメインに情報発信し、相手との信頼が強まればLINEのようなSNSを加えることで、コミュニケーションが一層深まります。

さらに、場を作ることで参加者等同士のフェイストゥフェイスが実施が可能になるほか、チラシなどの貼りだしも可能になりイベントの紹介や若い人の参加が期待できます。

成果が伴う情報発信は団体の会員、特にリーダーのエネルギーが必要です。森林整備が社会の最先端にいるという誇りを持ち、あきらめずに活動と情報発信を続けることが重要です。

### キーワード

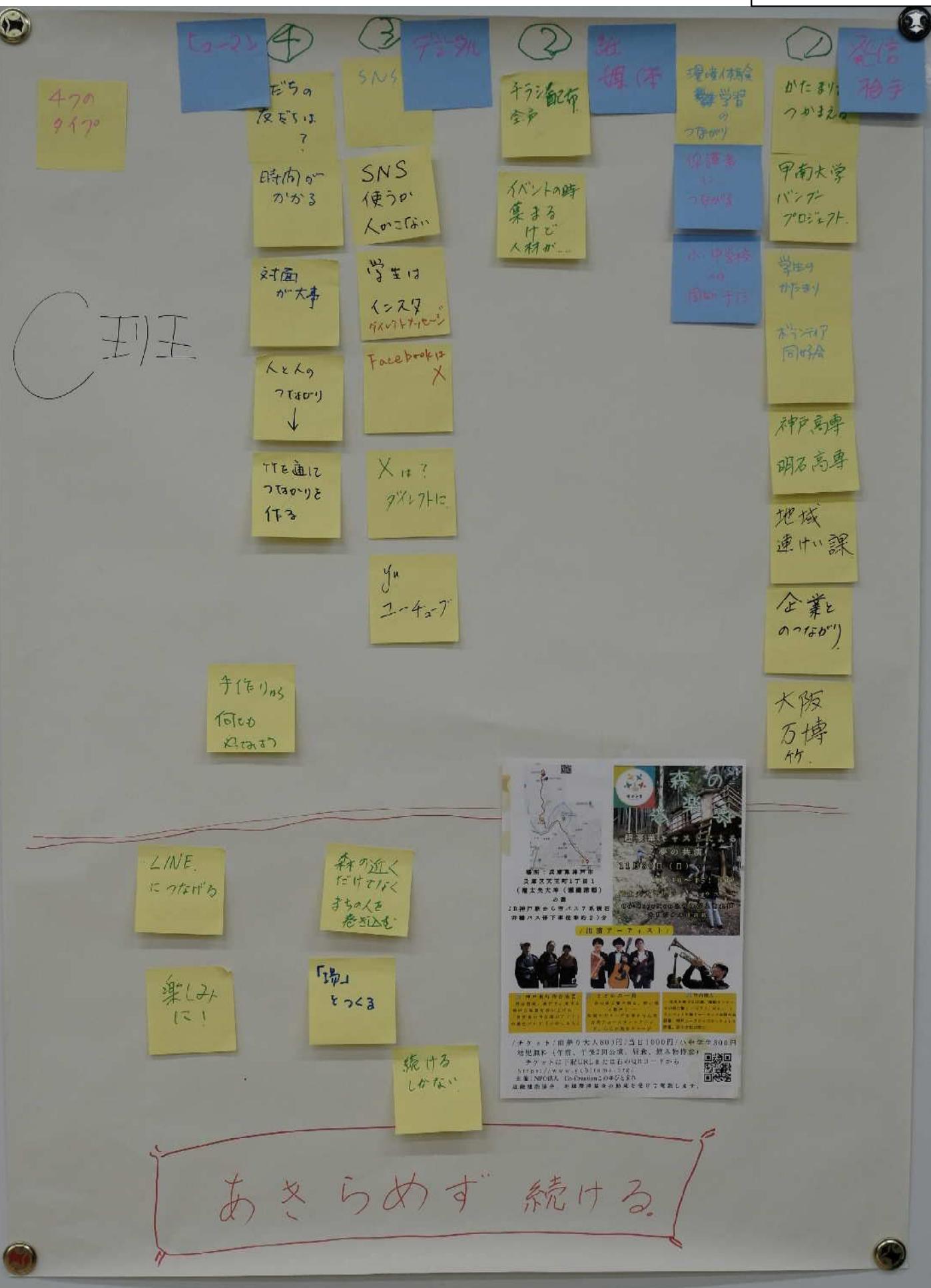
発信相手  
かたまりを捕まえる  
企業、保護者、学校との連携

紙媒体：チラシ配布  
デジタル：  
SNS、学生はインスタ、  
フェイスブックは不適

ヒューマン  
対面が大事  
「場」を作る

あきらめずに続ける

# C班模造紙



# D班

## テーマ：活動資金の確保

### 発表要旨

D班は活動資金の確保について検討しました。

D班の参加団体は設立時に比較的高額の補助金を受けており、その時に装備を揃えました。そのため、大掛かりな支出はありませんが、備品の補充や機材の更新のため、年間10万円の資金があると安心できます。

いずれの参加団体も定期的な収入がほとんど無いため、補助金を探して利用していますが、報告書等の事務作業が負担になっています。

また、資金だけでなく、活動のサポートが必要となっています。これには地元の賛同と自治会長の参加が特に重要です。地域とのつながりができると、高校生が参加しやすくなり、環境教育や炊き出しなど大掛かりなイベントも開催可能になります。加えて、行政によるサポートも団体の知名度向上などの点から重要です。

活動資金の確保で示されたアイデアは以下のとおりです。

- ・ふるさと納税、地元企業の協賛
- ・森の恵みの活用（薪、ホダ木、チップ等の販売）

検討の結果として、お金だけでなく、人とのつながりが活動の魅力的なものにし、活動をより活発にしていくと考えられる。

### キーワード

#### 現状と課題

- ・年間約10万円あると安心
- ・定期収入を持っていない団体が多い
- ・助成金が事務の負担がネック
- ・資金以外のサポートも必要

#### アイデア

- ・森林資源の活用（薪・ホダ木など）
- ・ふるさと納税の活用
- ・地元企業の協賛
- ・国等の補助金の活用（事務負担）

#### 地元一番

- ・自治会とのつながりが大切
- ・自治会長の参加
- ・自治会館（活動の拠点）

#### 魅力アップ

- ・行政の協力
- ・高校生の呼び込み
- ・炊き出しの実施
- ・地元協力が欠かせない

# D班 活動資金の確保

地元一番!

新規取組  
新しい取り組み  
取り組む  
(取り組む)

活動の幅広  
広く活動する  
取り組む  
活動の幅広く

工場へ販賣先  
販賣先を持つ  
販賣する先

自治会とのつながり力  
下TP

魅力 UP!

行政

高  
校  
生

食  
べ  
物

アイデア!

小豆の利用  
活用  
(活用する  
方法)

地元企業の  
協賛実績  
協賛の場所活用

連携

活動資金

高  
校  
生  
販賣

森  
めぐ  
めぐ

1. まくらぐるーぶ。
2. ナシオン創造の森育成会
4. 好き会(平松)

# 講評 兵庫県立大学 服部名誉教授

最後に各班の発表について、服部名誉教授に講評いただきました。

## 1 A班「森林環境教育への取組」

発表では森林環境教育の内容を何にするか、対象は誰か、指導者をどう確保するか、技術・資金の受け入れなどが課題として挙げられていました。

森林環境教育について整理しますと、市民が里山整備をするのは何のため・誰のためかとう間に行きつきます。その答えのひとつは自分のためですが、残りは次世代に里山を管理して残すためです。よって、森林環境教育の対象は次世代ということになります。

そして、何を教えるかですが、ヒトは生物であることです。そのため、五感を使って自然に触れてもらいます。南但馬自然学校では子供たちにタデをかじってもらい辛さを経験してもらいました。我々は五感を使って生きていますが、学校のカリキュラムは視覚聴覚に偏っていますので、五感を使うことは森林環境教育においてより重要といえます。

指導者は市民団体のグループ全員になります。資格がないと言われますが、資格はあります。日常的に自然と触れていることをそのまま話せばよいです。みんなが講師になれます。

## 2 B班「後継者の確保」

発表では高齢化が課題として示され、後継者確保のため観察会の開催、お土産を渡す等が挙げられていました。

私の独断になりますが、後継者の不在はどこの団体でも起きており、高齢化は避けられません。そのため、高齢化したとしても活動を続けられるかという観点も必要になります。例えば、町の近くの歩いて行ける山を活動地にすることもひとつの手段になります。

# 講評 兵庫県立大学 服部名誉教授

## 3 C班「外部への情報発信」

発表では情報発信について、何を発信するか、誰に発信するか、発信の手段が整理されていました。

外部への情報発信は自分たちの活動内容についての発信が基本です。そして発信相手の第一は団体が活動している地域です。地域の理解を得られず、活動がつぶれてしまったという例もあります。とにかく地域にきちんと情報発信して理解を求め、活動の重要性を訴える必要があります。渓のサクラを守る会ではエドヒガンの群生地が天然記念物に指定されており、活動の重要性を地域に発信しています。地域への発信が上手くいきましたら、さらに広く発信していきます。

地域への発信は環境教育と組み合わせます。地元の学校の子どもを受け入れることが重要です。渓のサクラを守る会はここもしっかりとっています。環境教育を受けた子どもが親に伝え、親が活動に参加するケースもあります。地域との密着は非常に重要です。ナシオン創造の森育成会も子どもの受け入れをしており、ガンピの栽培などの取組を発信しています。

## 4 D班「活動資金の確保」

発表では薪等の販売や入山料が挙げられていました。

また、活動のサポートの中で自治会との連携が挙げられていましたが、まさに地域との連携の第一段階が自治会です。自治会との連携が無ければ活動は進みません。

この他、活動資金として林野庁に有償ボランティア向けの助成金（注、里山林活性化による多面的機能發揮対策交付金）があります。

活性化することでお金が入りやすくなることが指摘されていましたが、重要な視点と思います。